江刺区

南部系、早池峰系が一堂に

第 28 回江刺神楽大会

八幡舞の演目で兄弟二神の舞を披露する出演者

第 28 回江刺神楽大会（同実行委員会主催）が 10 月 14 日、江刺農業者健康増進センターで開催され、約 150 人が神楽の舞を堪能しました。

郷土芸能が盛んな江刺区内には神楽も多く伝承されており、９件が無形民俗文化財に指定されています。28 回目となる今回は、科白（せりふ）神楽（南部系）４団体、山伏神楽（早池峰系）１団体が出演し、８つの演目を披露しました。

このうち、子供神楽も育成している小田代神楽からは、江刺第一中学校３年の高橋幸正（たかひろ）君と及川嵩弘（おいかわたかひろ）君が出演。小学生のときに始めたという２人は、八幡舞（はちまんまい）を力強く、そして息ぴったりに舞いました。観客からは大きな拍手が送られていました。

水沢区

家族そろって食育を学ぼう

親子食育のつどい

親子食育のつどい（市主催）を 10 月 13 日、まちなか交流館で開催しました。「見て、食べて、体験して学ぶ奥州の食育」をテーマに、エプロンシアターや食育紙芝居、親子で考案した給食レシピの展示などを行い、親子そろって食育についての理解を深めました。

「食べて学ぶ食育」では、市内産の食材を使用した料理５品を参加者に提供。各 100 食準備した試食はあっという間になくなりました。試食のレシピも配布し、各家庭における食育の実践が期待されます。

おいしそうに試食を頬張る子どもたち

消防団と一緒に放水を体験

胆沢区

防災意識をキャンプで養う

防災キャンプ 2012

「防災キャンプ 2012」（子どもの未来を育てる「群」の会主催）が 10 月 13 日、14 日の両日、ひめかゆスキー場前広場を主会場に開催され、市内小学生など約 60 人が参加しました。同キャンプの目的は、子どもたちが災害発生時の心構えを学ぶこと。今回は、被災地支援活動を続けている岩手県立大学の学生も参加し、実際の活動で感じたことを参加者に伝えていました。放水体験も行われ、子どもたちは、ホースの重さに戸惑いながらも真剣に放水に取り組んでいました。

後藤新平の偉業について語る渡辺利夫拓殖大学総長・学長

新平の思想を現代に生かす

水沢区

後藤新平顕彰会設立 10 周年記念式典

後藤新平顕彰会（梅森健司会長）設立 10 周年記念式典と講演会が 10 月 20 日、後藤伯記念公民館を会場に開催され、市民など約 150 人が参加しました。自治三訣の唱和や顕彰歌の斉唱など、先人を称える厳かなオープニングに続き、式典では、同会設立に尽力した初代会長の故・吉田瑞男さんへの感謝状が、ヤス子夫人に手渡されました。その後、渡辺利夫拓殖大学総長・学長の講演会が行われ、「東日本大震災後、新平の偉業を見つめ直そうという風潮がある」と語りました。

なぜか夢中になってしまう

衣川区

大人“だって”おにごっこ

「大人“だって”おにごっこ」（特定非営利活動法人夢追座主催）が 10 月 28 日、衣川区のとうほくニュージーランド村で開催されました。

４回目のことしは、雨にもかかわらず、市内外から 20 代から 30 代の若者 58 人がエントリー。最初は余裕の表情でも、捕まりそうになると夢中で逃げ回っていました。前沢区から友人と３人で参加した阿部さんは、「コンディションが悪く５分で捕まった。次はリベンジしたい」と次回参加への意欲を見せていました。

追っ手から逃げる参加者

20 枚の絵札に神経を集中

江刺区

第 10 回五色百人一首岩手県大会

第 10 回五色百人一首岩手県大会（特定非営利活動法人子ども＆教師銀河夢サポート主催）が 10 月 13 日、えさし郷土文化館で行われました。

五色百人一首とは、小倉百人一首を５色に色分けして 20 枚で対戦するもの。当日は県内各地から小中学生 23 人が参加し、取った札の枚数を競いました。

小学５年生から始めた石澤奈実さん（水沢南中３年）は、「対戦を通じて古典が好きになった。100 句は自然に覚えますよ」と楽しそうに話してくれました。

神経を研ぎ澄ませ対戦する参加者

ドングリを丁寧にポットへ入れる参加者

早く芽を出して、ドングリ

前沢区

第５回「奥州万年の森」ドングリの苗づくり

奥州万年の森づくり実行委員会主催によるドングリの苗づくりが 10 月 27 日、奥州万年の森公園（前沢区字石田）で行われ、小学生から大人まで 43 人が参加しました。参加者は、ドングリ２～３個を多めの土と一緒に黒いポットへ入れる作業を繰り返し、２時間ほどで 2,251 個のポットができました。今回準備したドングリは、ミズナラ、コナラ、クヌギ、トチ、ヤマグリの５種類 5,700 個。芽を出した苗は、３年ほど育てた後で同公園に移植されます。